

ドームテント コクーン DCT-01

取扱説明書



本製品のサポート情報や説明はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.be-s.co.jp/>

ー ドームテント コクーン DCT-01 製品仕様 ー

サイズ	3150 × 1550 × 高さ 1030 mm
折畳みサイズ	長さ 530 × 直径 170 mm
重量	(約) 3.1kg
耐水圧	3000mm
材質	フライシート / ポリエステルリップストップ耐水圧 3000 mm、グラウンドシート / ナイロン耐水圧 3000mm、ポール / アルミ (直径 8.5mm)
入口	フロント 1 箇所 + バックドア 1 箇所 (メッシュ、シート開閉式)
通気口	1 箇所 (メッシュ、トップシート開閉式、バックドア兼用)

※製品改良の為に予告無く製品仕様を変更することがあります。

※当説明書内容の無断転用を禁止します。

Copyright© 2009 BE-S CO.,LTD. All rights reserved.

本製品をお選びいただき、誠にありがとうございます。

本製品をご使用の際は、必ず本書をお読みいただきご理解の上で使用いただけますようお願いいたします。また、お読みいただいた後もこの説明書は大切に保管してください。

本製品のサポート情報や説明はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.be-s.co.jp/>

※本書では「D.O.D. ドームテント コクーン DCT-01」を、「本製品」と表記しています。

ご使用上、特に注意していただきたいこと

【警告表示の説明】

 警告	この表示のあるものは、死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示のあるものは、傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容を示しています。

警告

 禁止	火気に近づけないでください。また、テント内でタバコ、ロウソク、ストーブなど火気を使用しないでください。本製品を蒸気や、高温になるものに近づけないでください。
 禁止	本製品のいずれかの部品に異常が見受けられた場合、また異常を感じた場合はただちに使用を中止してください。
 禁止	台風、大雨、強風下など危険な状況下でのご使用はお止めください。 河原、海岸の水際、崖下など危険性がある場所で使用しないでください。

注意

 強制指示	お子様のみの使用は非常に危険です。常に保護者の監督の下で組み立ての上、ご使用ください。
 禁止	自転車や自動二輪車に本製品を結んだり、同一のタープなどで覆わないでください。 風により自転車や自動二輪などが転倒する可能性があります。

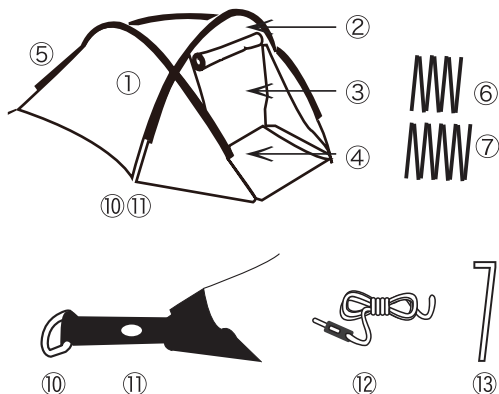
 禁止	各ポール・ジョイント・布地に圧力がかかるような状況下での使用はお止めください。
 禁止	組み立て時や折畳み時には、本製品に対して無理な力を加えないでください。破損の原因となります。
 禁止	保管にあたっては、本製品を乾燥させ、汚れや水分をよく落としてください。特にグランドシートの湿気にはご注意ください。
 強制指示	ポールをハトメ（鳩目）に固定するときは、指先などを挟まないようにご注意ください。保護手袋、作業手袋をご使用ください。
 強制指示	ペグにて本製品を固定してください。
 強制指示	ポールを折り畳むときは、真ん中より左右交互に折り畳んでください。端から折り畳むとポール内のコードの破損の原因となります。
 禁止	釘やくい、砂利、貝殻、ガラス片、金属片、木片等、とがったものとの接触は避けてください。
 禁止	本製品を次のような場所で保管しないでください。 ・ 直射日光に当たる場所 ・ 高温になる場所 ・ 急激な温度変化のある場所（結露しそうな場所） ・ 湿度が高い場所。海辺など塩気の多い場所 ・ ホコリが多い場所
 強制指示	本製品を廃棄の際は各地方自治体の廃棄区分に従って廃棄してください。

※その他

雨量によっては、縫い目やジッパーの合わせ目から浸水する場合がございます。雨天時の使用では、場合によってタープ、アンダーシートの併用をおすすめします。アンダーシートとはテントの下に敷くシートです。防水のみならず、汚れや、石などによる破れを防ぎます。アンダーシートがない場合、ビニールシートや、ブルーシート（防水性は劣ります。）でも代用できます。

本製品は山岳用テントをベースに作られているため、各ポールのテンション（張力）が高めに設定されています。設営時は出来るだけスリーブ（ポールを通すテントの筒部分）のシワ、片寄を取ってください。ポールをハトメに固定するときは指先などを挟まないようにご注意ください。保護手袋、作業手袋をご使用ください。また、ポールが濡れているとスリーブ内での滑りが悪くなり、設営しにくい場合がございます。乾いた布などでふき取ってからご使用ください。

各部の名称及び、付属品

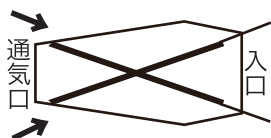


1	フライシート（グレー）
2	インナーテント（ブルー）
3	入口
4	エントランスシート
5	後方通気口
6	ポール小（7 節）
7	ポール大（9 節） × 2 本
8	ポールスリーブ小
9	ポールスリーブ大
10	D リング
11	ハトメ
12	ストームロープ×4 本 フライシートに付属
13	ペグ×13 本

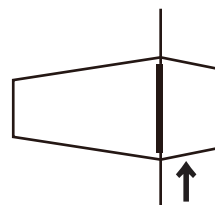
設営方法

1 本製品は雨天でも素早く設営できる吊下げ方式です。

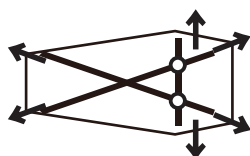
フライシートを袋から取り出し、安定した地面へ置きます。コンクリートなどの硬い地面の上へテントを置くと、地面との摩擦によりテント生地が破損することがありますのでご注意ください。アンダーシートの併用をおすすめします。



2 後方通気口（矢印付近）よりポール大をフライシートのポールスリーブ大（ブルー）に通します。ポール大を交差させて" X" 字にします。通気口側のハトメにポールの先端を固定します。※ この時点では、入口側のポール先端はハトメに固定しません。

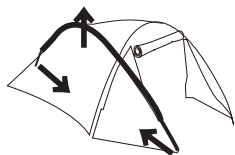


3 フライシートのポールスリーブ小（ブルー）へ、ポール小を通します。※この時点ではポール小の両端ともハトメに固定しません。フライシートを広げるようにハトメを外に向かって引っ張り、ポールスリーブのシワ、片寄を減らします。特にポールスリーブ小とポールスリーブ大との交差部分（左下図○部分）を広げ、ポールスリーブ小のシワ、片寄をとります。





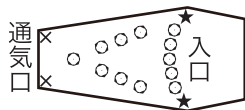
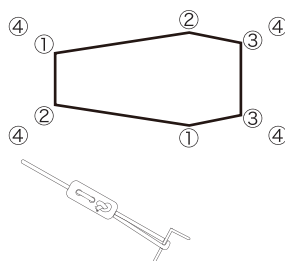
4 入口側より片方ずつポール大を起こします。ポール大のハトメに固定されていない先端を持ち、さらにスリーブの中に差し入れ、フライシートがアールを描くように持ち上げます。このとき、スリーブや布地が挟まったり、絡んでいないことを確認してください。フライシートが完全に持ち上がりましたら、ポール大の先端を入口側ハトメに差し込み固定します。もう片方のポール大も同じように固定します。



5 ポールの先端が固定し難い場合は、再度、スリーブのシワ、片寄を確認してください。また、ポールのアールの頂点を持ち上げ、対角線上のハトメ同士を少し近づけるようにしてください。一人で設営の場合は、ポールがアールを描いた状態を保ちつつテントの固定されていない側（入口側）を少し持ち上げ、反対側のポール先端を地面に軽く押しつけるようにします。※力を加えすぎますと、破損の原因となりますので、ご注意ください。同様にポール小をハトメに固定します。



6 左図①→②の順番にハトメの外側のDリングにペグを打ち込みます。本製品は計量化の為、プラスチック製のDリングを採用しております。プラスチックハンマーなどを使用し、Dリングが破損しないようにご注意ください。フライシートの入り口を閉じて③にペグを打ち込みます。次にストームロープを伸ばし、④にペグを打ち込み固定します。※土足用のシェルターとしてはこの状態でご使用いただけます。



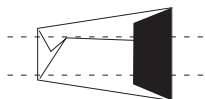
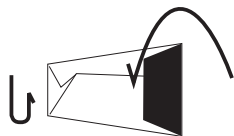
7 フライシートの通気口側×印にインナーテントのフックをかけ、トグルボタン（留木）をフライシート左図●位置に通気口側から順番にとめます。最後に入口両側下にあるフックをフライシートのDリング★印にかけます。エントランスシートを広げ、⑤にペグを打ち固定します。



撤収方法

8 撤収前に本製品を日に当て、よく乾燥させてください。気象条件等により乾燥できない場合は帰宅後、速やかに乾燥させてください。

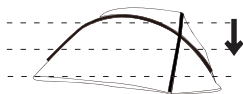
9 インナーテントのトグルボタンを入口側より外します。
インナーテントをフライシートより取り出し、地面に広げます。インナーテントの入り口ジッパー、後方通気口を 10 cm 程残して閉じ、どちらかの壁面（左図では上側の壁面）を谷折りにし、反対側の壁面をその上に被せます。立体縫製のため、すこし、上から潰す感じになります。その後、土間シートを内側に折り込みます。



10 左図の点線部分で谷折りにします。幅を折り畳んだポールより少し狭い程度（約 48 cm）にします。



11 フライシートよりポールを抜き取り、屋根の中心（左図点線）で 2 つ折り（山折）にします。



12 2 つ折りにしたフライシート左図点線の部分で屋根側より谷折にして、幅を折り畳んだポールより少し狭い程度にします。



13 折りたたんだポール、ペグを巾着袋に入れます。
ポール、ペグを中心に折り畳んだインナーテントを巻きつけます。
その上から、フライシートを巻きつけます。

